

## 「終の棲家」 続き

—誰も病気から逃げられない—

2022年11月18日

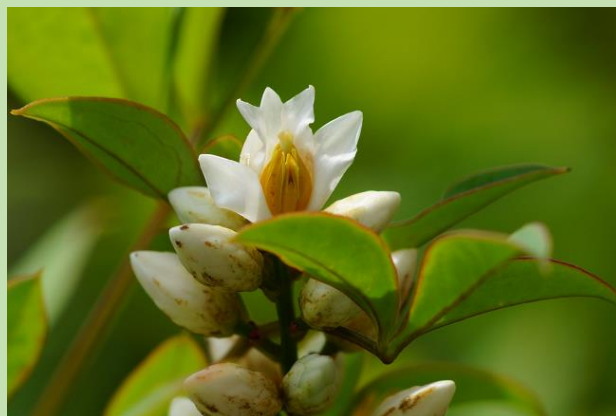
太田隆次

11月17日のKOZOOM欄に、野口さんが「妄想」と題してご自分の「終の棲家」のこともユーモラスに書かれ大いに我が意を得ました。50年近い現在のご住居の思い出をお孫さん達の写真も入れてご紹介されつつ「終の棲家」を2年前から探索中とのお話も書いて居られました。

先日「終の棲家」の拙稿の説明にと、時あたかもたまたま発行された「介護」特集の「週刊ダイヤモンド」10月29日号を、ご迷惑とは思いつつ皆様に無断で送りました所、お礼状やご感想を頂き恐縮しております。

ただ、特集「介護ホーム1000」では限られた紙面では情報量としては不足で、これから探す方に不十分ですので、もっと詳しく地区別に介護ホーム別、予算別に、情報が得られるサイトがありますので紹介します。

ご関心のある項目別にインプットしてサーチすれば、全国規模で知りたい情報が得られると思いますのでご利用下さい。



<https://www.roujin-homes.jp/ranking/youtube/>

例えば神奈川県「サ高齢」の例です。

[【神奈川県】サービス付き高齢者向け住宅老人ホーム・介護施設一覧【有料老人ホーム情報館】 \(roujin-homes.jp\)](#)

以下は私流の「介護ホーム」例です。

結論を先に書きますと、両親との死別、子供の独立。家内の突然の旅立ちなどで、一人暮らしになった、横浜の長年の戸建ての持ち家を処分して、ここ埼玉県杉戸の自前のわたくし

流のマンション型「介護ホーム」(?)にこの17年間、住んでいます。「こういうのもあり」ということでご参考になれば幸いです。

この十数年来、親しかった友人達が次々と病気で亡くなり、介護で面倒をかける家族の生活が脅かされる多くの例を見聞するにつれ、自分のような「一人暮らし」は、高価で立派な施設内の治療や介護に頼るよりも、実利本位で「物理的に病院に近い場所」に自らの「介護ホーム」を確保するのが正解と思うに至りました。

私の思いが通じたのか、家内が亡くなって間もなく、駅から5分のある病院の隣接地に、川沿いのマンションの建設計画があることを知り、建設会社に打診した所、まだ設計段階なので内部はオーダーメイドに出来るとのことで、防犯、防火などの標準仕様の他、数例をあげますと全室床張りで敷居なしのバリアフリー

1. 自分の部屋は、引き戸式で介護病室に転用予定の設計
  2. 浴室はどこかからでも掴める手すりを増設
  3. 押し入れはなく、全部広いウォーキングクローゼット
  4. カーペットなしの転倒防止の配慮（リビングルーム床暖房など）
- .....

などなどで、事前設計なので付加費用は ほとんどゼロでした。

持ち家を将来の「介護ホーム」に生かしたい方々の参考になれば幸いです。